

事務局説明資料

2025年9月16日

独立行政法人情報処理推進機構
デジタル基盤センター デジタルエンジニアリング部
ソフトウェアエンジニアリンググループ

- ◆ IPAの活動状況共有
- ◆ 2025年度ソフトウェア動向調査について
- ◆ 2025年度委員会報告書の方針について

IPAの活動状況共有

2025年度想定活動

以下に、IPAの本年度想定活動を記載。一部の活動は次ページ以降に詳細を記載（データエンジニアリングやCloud-Edge-IoT関連の活動は検討中）

活動テーマ	想定活動
普及啓発活動	※詳細は後述
組織の壁を越えた対話の促進	ソフトウェアモダナイゼーション委員会での検討・連携
国内外の最新動向の収集・広報	海外の最新動向調査 → 「要件定義の高度化、モデリング&シミュレーションの推進」のテーマと統合 2025年度ソフトウェア動向調査 ※詳細は後述
AI活用の高度化	AI関連の情報発信（AI最新動向、AI活用開発など） → AIエージェントの技術コラムを2025年7月に公開
要件定義の高度化、モデリング&シミュレーションの推進	※詳細は後述
オープンソースの推進	※詳細は後述
リーガルテックの推進	※詳細は後述
契約、規約などの標準化推進	AI利用規約のひな形整備 → 検討中 最新のSLCPの情報発信
レガシーシステムの脱却	企業のDX・モダン化の進行度を可視化・診断するガイドライン及びツールを整備 ※詳細は後述

■ SDS解説コンテンツの作成

- ◆ 普及啓発の出発点として、昨年度のソフトウェアモダナイゼーション委員会報告書で提言したソフトウェアの重要性やSoftware-Defined Society（SDS）の理念、SDSに必要な要素などを、広く分かりやすく伝えるコンテンツを作成
- ◆ 本事業で作成したコンテンツをベースに、今後は多様なターゲット（経営層など）に対応したコンテンツの充実を図っていく予定

想定成果物

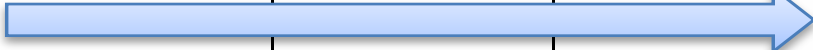
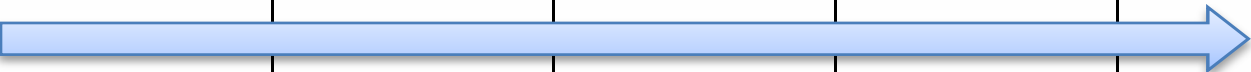
1. SDS解説ドキュメント： SDSやソフトウェアの重要性を、ITの専門知識があまりない社会人層が理解できるよう、イラストや図など含めた分かりやすいドキュメント（構成案後述）
2. SDS解説動画： 1のSDS解説ドキュメントをベースに、ナレーションや字幕など加えた解説動画
3. SDS紹介チラシ： 1のSDS解説ドキュメントの内容をピックアップした紹介チラシ

SDS解説ドキュメント構成案

- ◆ ソフトウェアが社会を支える時代
- ◆ なぜソフトウェアが重要なのか
 - VUCA時代への適応とアジリティの重要性
- ◆ Software-Definedとは
- ◆ Software-Defined Society (SDS) とは
- ◆ SDSがもたらす社会変化のイメージ
 - 経済成長、社会課題解決など
- ◆ SDSに不可欠な要素
 - モデリング、ビルディングブロック、データ、AIなど

要件定義の高度化、モデリング&シミュレーションの推進 FY25想定活動

- ◆ 本技術の**海外事例調査、国内普及戦略の検討**を実施予定
 - 【国内外調査】US、UK、ドイツ他でのエンタープライズ分野のモデリングに関する先進事例及びモデリング普及率の高い国における過去の普及施策を調査
 - 【普及戦略検討】国内への普及戦略検討
 - 【最新動向収集、報告】モデリングに関連する技術動向などを調査
- ◆ 状況
 - 外部事業者を調達し実施予定。公告・技術審査完了後、9/19に開札予定
 - [入札公告「Software-Defined Societyに関する情報収集・分析等業務」に係る一般競争入札](#)
- ◆ スケジュール

	項目	‘25/10 月	11 月	12 月	‘26/1 月	2 月
1	国内外調査(2.1)					
2	普及戦略検討(2.2)					
3	最新動向収集、報告(2.3, 2.4)					

表内の()は本仕様書の章番号を示す。

オープンソース推進 活動状況（1 / 2）

FY25活動予定（前回再掲）

- ◆ **ビルディングブロック型開発に向けたモデル検討と部品化基盤の構築**
 - OSS部品カタログ（試行版）の公開（12月予定）
 - 行政機関のシステムに使用されているOSSのリスト
- ◆ **OSSリテラシーと実践スキルに関する人材育成・教育体制の整備**
 - “OSSの取り組みスターターキット”の公開（2026年3月予定）
 - 関連して、スターターキット作成の公開ワークショップシリーズを開催（11月より全3回予定）
 - OSSに関する組織ガバナンスを担える人材「OSPO人材」の育成に特化
- ◆ **並行して、日本のOSSエコシステムのリサーチを実施**

オープンソース推進 活動状況（2 / 2）

9/4（木）情報公開：企業向けワークショップ「OSPOLレベル1構築ワークショップ」 エントリーのための事前説明会（10/2（木）ハイブリッド開催）

※本イベントは、11月から全3回の開催を予定している「OSPOLレベル1構築ワークショップ」の参加企業募集に向けた事前説明会
詳細はこちら → <https://www.ipa.go.jp/event/2025/briefing-ospo-workshop20251002.html>

【ワークショップ本編の概要】

全3回のワークショップを通じて、参加者はIPAが提供するスターターキット（テンプレート）を持ち帰り、自社に合わせてドキュメントを完成させるプロセスを学ぶ。

ワークショップ終了時には、「私たちでもできる！」という具体的な行動指針と自信を持って、自社のOSS推進に臨めるようになることを目指す。

会場参加のみ・先着順10社程度（1社あたり4名まで）

※組織単位での募集。ワークショップ本編は組織での申込みだが、事前説明会は個人で申込み可

※ワークショップ全3回すべての参加が条件

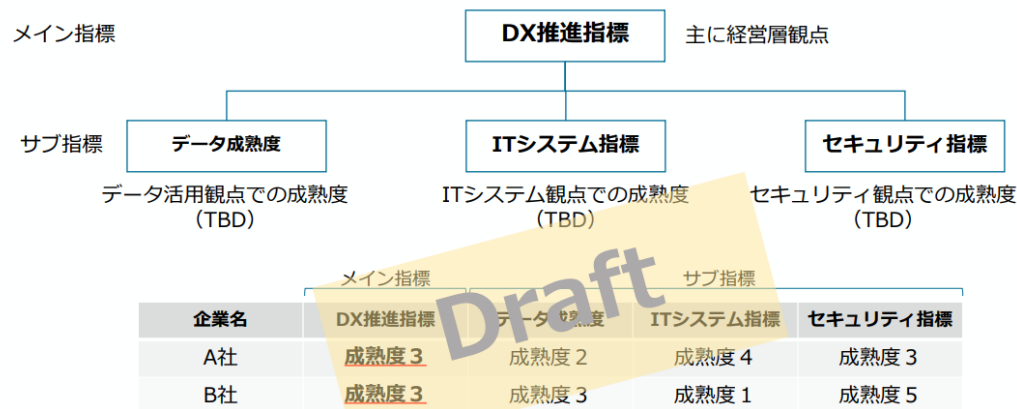
企業のDX・モダン化の進行度を可視化・診断する ガイドライン及びツールを整備 活動状況

◆ 概要

- 昨年度にレガシーシステムモダン化委員会にて検討した今後の方向性に基づき、DX推進指標のサブ指標として「ITガバナンス指標（仮称）」と「データマチュリティ指標（仮称）」を新規に作成するとともに、診断結果に応じた改善サイクル遂行を支援する自己診断ツールおよびガイドブックを整備

①DX指標の体系化

メインのDX推進指標で企業の概況を自己診断、個別のサブ指標で詳細な自己診断。
企業のDX実態を総合的に評価、多角的な経営判断や投資の意思決定のインプットに活用。



企業の実態を総合的に把握
成熟度に応じた事例データを参照

①IT資産の自己診断ツールの整備

IT資産がどんな状態にあり、どういった方針や手法でモダン化を進めるべきかの自己診断ツール。



リーガルテックの推進 活動状況（1 / 2）

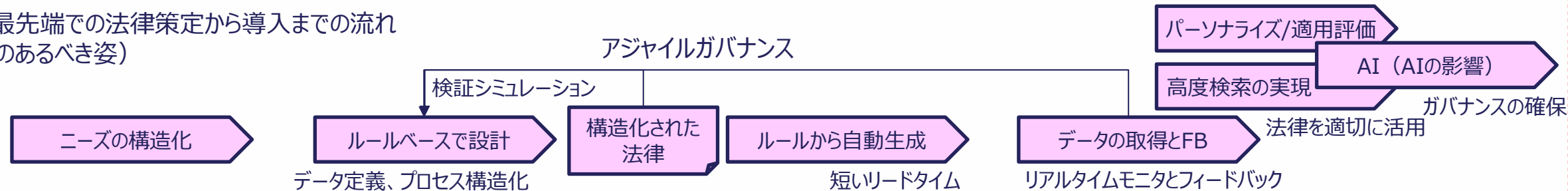
- ◆ 京都大学 法政策共同研究センターと共同で検討を開始
 - ① 国内外の状況の調査と戦略検討
 - 検討の参考となる世界の先行取り組みの調査
 - 技術的及び社会的なフィージビリティも踏まえながら、今後の我が国がとるべき戦略を検討
 - ② モデリングによる有効性検証
 - 法律をモデリングにより可視化し、有効性を検証
- ◆ 第一弾として11月頃に概要紹介資料を公開予定

リーガルテックの推進 活動状況（2／2）： （検討中）AI時代のルール形成と運用の方法論

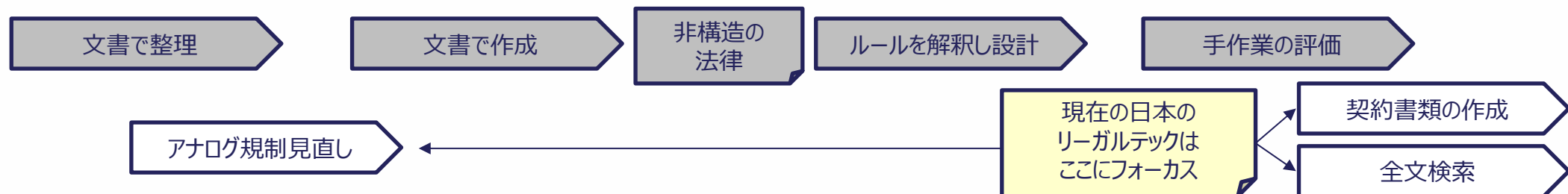
- ◆ AIなどの技術変化に追従するには、従来の文章をベースとした法令管理では対応が困難
- ◆ 柔軟かつ迅速なアップデートを可能とする**リーガルテックの全面活用**が必要である



世界の最先端での法律策定から導入までの流れ
（今後のあるべき姿）



従来の法律策定から導入までの流れ



2025年度ソフトウェア動向調査について

現在検討中の本年度ソフトウェア動向調査の方針案を以下に示す。

タイトル	2025年度ソフトウェア動向調査
調査目的	ソフトウェアモダナイゼーション委員会が示す方向性の進捗度を把握
調査対象	国内のユーザー企業・ベンダー企業（1企業で複数回答可）、【オプション】個人
調査時期	2025年11月下旬～12月下旬：アンケート実施 2026年1～2月：オープンデータ・分析レポート公開
調査方法	Webアンケート
周知方法	業界団体経由、IPA Webサイト・メルマガ・SNS、【オプション】アンケート集計事業者
設問数	約40～50問（プロフィール項目を含む）
設問方針	- 昨年度の設問軸を見直し、選択肢も再構成 - 今年度は個別の深掘りではなく、全体的な動向把握を重視 「取り組んでいるか」「成果は出ているか」「課題は何か」といった聞き方に統一

2025年度委員会報告書の方針について

2025年度委員会報告書の方針について

昨年度報告書の全面改訂ではなく、本年度は「別冊」として公開を予定。

■ 想定内容

- ◆ 2025年度委員会の活動実績：委員会開催状況、団体間連携の実績 等
- ◆ IPAおよび各団体の活動まとめ：IPAおよび団体活動を横断的に整理
- ◆ ロードマップの具体化：各テーマにおける翌年度以降の活動計画を詳細化
- ◆ ビジョンの深堀り：SDSやAIを活用した開発、根拠となるデータの提示など
- ◆ 各委員からの寄稿：各業界の視点から見たソフトウェアの重要性やSDS関連の動きなど

■ 想定スケジュール

- ◆ 2025年11月：方針および骨子の検討
- ◆ 2025年12月～2026年2月：報告書の作成
- ◆ 2026年3月：報告書の公開

IPA